

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

| | | | | | | | | | | |
|---------|-------------------------------|--|--|--------|----------------|--|--|--|----------|--|
| 事業番号 | | 04 02 09 | 中期総合計画主要施策番号 | | 3-07 | | 担当課 | 部・課 | 社会部地域福祉課 | |
| 事業名 | | 戦没者慰霊事業 | | | | 内線 | | 2320 | | |
| | | | | | | E-mail | | chiiki-fukushi@pref.nagano.jp | | |
| 事業の概要等 | 事業の目的 | ・先の大戦における戦没者を追悼すること及び戦没者に慰霊の誠を捧げることをもって、世界の恒久平和を祈念する。 | | | | | | | | |
| | 事業の必要性 | 【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・戦後64年余が経過し、戦没者遺族が高齢化していくとともに、先の大戦を経験しない世代が年々増加しており、こうした世代に戦没者追悼と平和祈念の事業趣旨を理解していただくことが年々難しくなっている。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・先の大戦を経験しない世代が県民の多くを占める現状であり、今後、年代を重ねるごとに戦争の記憶は希薄なものとなっていく。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・戦没者遺族の高齢化が進んでいることから、その心情に配慮して援護事業を進めるとともに、再び戦争の惨禍が繰り返されることのないよう、平和への誓いを新たにするため戦没者追悼式を実施し、追悼の誠意を捧げ平和を祈念することが大切である。 | | | | | | | | |
| | | 事業内容 | | | | | | | | |
| | | ・長野県戦没者追悼式の実施 ・沖縄「信濃の塔」慰霊戦跡巡拝遺族派遣事業補助 補助率【県】1/2 ・千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式・全国戦没者追悼式への遺族の派遣 | | | | | | | | |
| | 実施期間 | S39 ~ | | 根拠法令等 | 長野県戦没者追悼式実施要領等 | | | | | |
| 成果と達成状況 | 事業の目指す成果 | | 達成度(期待どおり)の判定基準(H20) | | | 達成状況 | | 評価 | | |
| | ・戦没者遺族が追悼式等に参加し、慰霊を行い平和を祈念する。 | | 前年度と同程度の参加を目標とする。 ・19年度長野県戦没者追悼式参加者 920人 ・19年度全国戦没者追悼式参列遺族数 115人 ・19年度信濃の塔追悼式参列遺族数 38人 | | | 前年度と同程度の参加が得られた。 ・20年度長野県戦没者追悼式参加者 885人 ・20年度全国戦没者追悼式参列遺族数 117人 ・20年度信濃の塔追悼式参列遺族数 32人 | | a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下 | | |
| 事業コスト | 区 分 | | 単位 | 19年度 | 20年度 | 21年度(当初) | 20年度の概要 | | | |
| | 最終予算額 (A) | | 千円 | 7,863 | 7,681 | 7,681 | 国庫・県単 県単 | | | |
| | 決 算 額 (B) | | 千円 | 7,446 | 7,387 | | 実施方法 直接・補助 | | | |
| | B(H21はA)のうち一般財源 | | 千円 | 7,446 | 7,387 | 7,681 | 歳出節別内訳等 | | | |
| | 概 算 人件費 | 従事する職員数 | 人 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | ・報償費:19・旅費:1,598 ・交際費:229・需用費:2,385 ・役務費:329・委託費:439 ・使用料:718・補助金:1,670 | | | |
| | 概算事業費 (B(H21はA)+C) | | 千円 | 14,586 | 14,536 | 14,830 | (単位:千円) | | | |
| 事業実績 | 内 容 | | 単位 | 19年度 | 20年度 | 21年度(予定) | 左記以外の20年度の実績 | | | |
| | 長野県戦没者追悼式参列遺族数 | | 人 | 920 | 885 | 900 | | | | |
| | 全国戦没者追悼式参列遺族数 | | 人 | 115 | 117 | 118 | | | | |
| | 信濃の塔追悼式参列遺族数 | | 人 | 32 | 32 | 32 | | | | |
| 事業の課題 | 区 分 | | 判 定 ・ 説 明 | | | | | | | |
| | 事業のニーズの変化 | | 増加 | 横ばい | 減少 | 判定の説明 | ・戦没者遺族の高齢化が進み、援護対象者は漸減しているが、その心情に配慮し、戦没者の追悼・平和への誓いを新たにすることの事業の継続性が認められる。県の関与の見直しについても当面検討の余地はないと考える。 | | | |
| | 県の関与を見直す余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| | 有効性を高める余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| | 効率性を高める余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| | 課題の総括 | | ・先の大戦から64年が経過し、戦没者遺族の高齢化が進み援護対象者が漸減している。全国戦没者追悼式が継続して実施されており、県としても再び戦争の惨禍が繰り返されることのないよう、平和への誓いを新たにするため追悼式を実施し、戦没者に対して追悼の誠を捧げ平和を祈念することを継続することが大切である。引き続き戦没者遺族に対する援護を進め、当面は遺族の心情に配慮しながら現行の取り組みを維持する。 | | | | | | | |